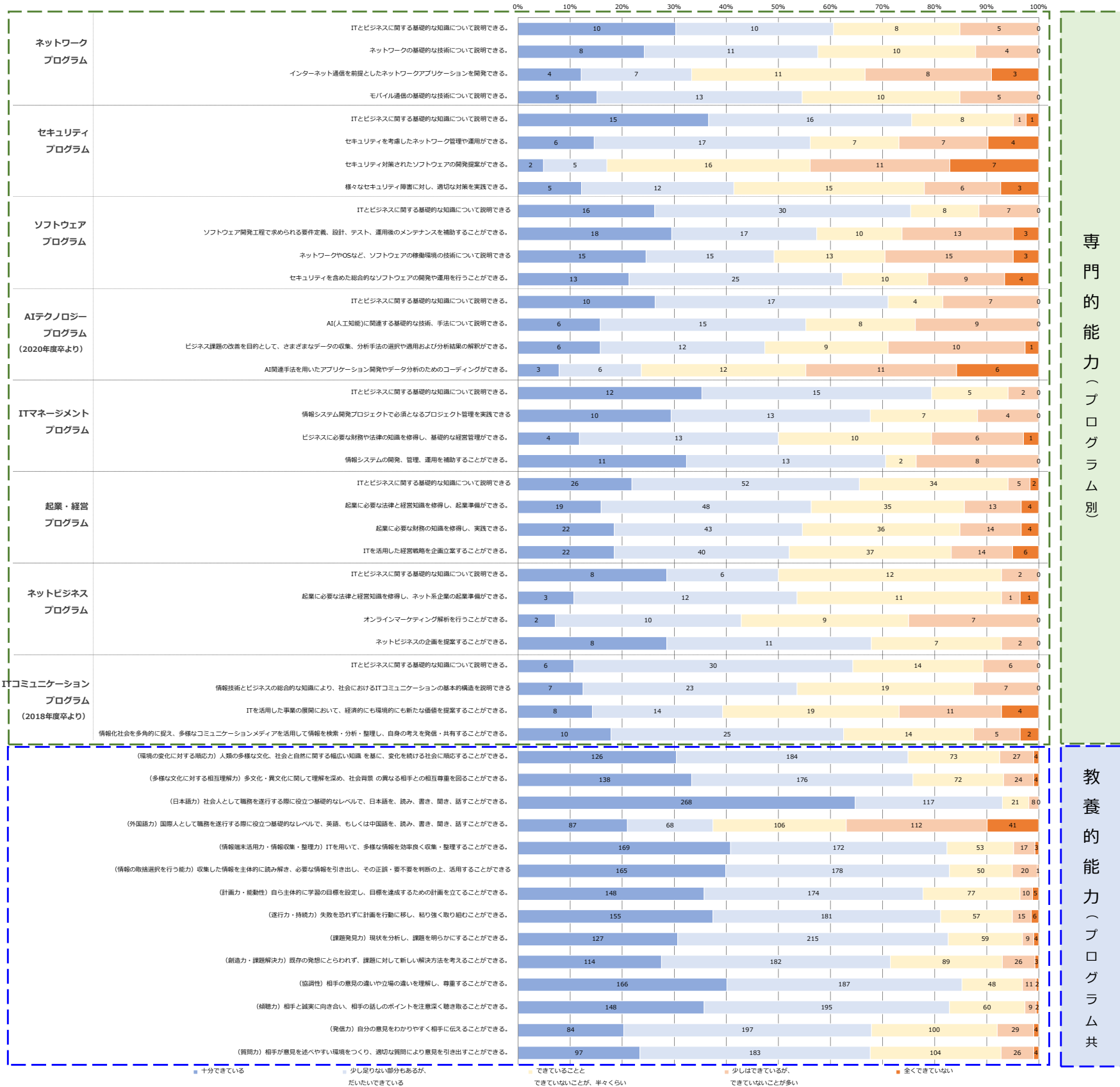


学修成果の検証結果

サイバー大学(以下、本学)では、卒業から1年未満の方を対象に「卒業生ディプロマ・ポリシー達成度アンケート」を毎年1回、実施しています。以下は、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度の卒業生による回答を集計した結果です。本学がディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に定義した「専門的能力」と「教養的能力」の達成度を測るために、「1. 十分できている」、「2. 少し足りない部分もあるが、だいたいできている」、「3. できていることとできていないことが、半々くらい」、「4. 少しはできているが、できていないことが多い」、「5. 全くできていない」までの5段階で評価しています。この結果に基づき、本学の教育課程を通じて、「IT知識」、「ビジネス応用力」、「コミュニケーション力」という三つの力をバランス良く身に付けた「高度IT人材」を育成できているかどうか、学修成果の検証を行っています。

ディプロマポリシー達成度アンケート_2018~2021年度卒業生_集計結果



検証結果に対する総評と今後の改善施策

本学では、学修成果の検証において達成すべき水準として、「十分できている」および「少し足りない部分もあるが、だいたいできている」という肯定的な回答が全ての項目で50%以上になることを目指しており、これをアセスメント・ポリシーとしています。専門的能力に関しては、5段階評価のうち「十分できている」および「少し足りない部分もあるが、だいたいできている」という肯定的な回答をした割合が、概ねすべての項目で50%以上という結果でした。すべてのプログラムに共通する専門的能力として、「ITとビジネスに関する基礎的な知識について説明できる」という項目に関しては、全体で68%の卒業生が肯定的な回答をしています。しかしながら、「インターネット通信を前提としたネットワークアプリケーションを開発できる。」や「セキュリティ対策されたソフトウェアの開発提案」、「AI関連手法を用いたアプリケーション開発やデータ分析のためのコーディングができる。」などアプリケーションやソフトウェア開発、データ分析などプログラミングに関する能力について、「少しはできているが、できていないことが多い」および「全くできていない」と否定的な回答をした割合が30%を超えていました。より実践的なプログラミングスキルに関する教育を充実させるため、複数のプログラミング系科目(「ソフトウェア開発論Ⅰ」、「Javaプログラミング演習」、「Pythonプログラミング演習」)を2022年度秋学期から2023年度秋学期にかけてリニューアルするとともに、2023年度秋学期からの新規開講科目(JavaScriptフレームワークによるWebプログラミング)も予定しています。また、「ビジネスに必要な財務や法律の知識を修得し、基礎的な経営管理ができる。」や「ITを活用した事業の展開において、経済的にも環境的にも新たな価値を提案することができる。」でも否定的な回答をした割合がやや目立っていますが、ビジネス系の専門科目においても、2021年度春学期の「デジタル技術と情報化社会」新規開講および、2023年度春学期には「ビジネスモデル構築論」が新規開講予定であり、ビジネス系科目の充実も進めています。同じく、教養的能力に関しては、肯定的な回答をした割合が、一項目を除いて、すべて70%以上という結果でした。本学の特色である「ITを用いて、多様な情報を効率的に収集・整理することができる。」という項目では、82%の卒業生が肯定的な回答をしています。教養的能力のうち「外国語力」の達成度では、肯定的な回答が唯一40%を割ってしまっており、卒業生に自信を抱かせることができていない点が課題と認識しています。本課題の対策として、2021年度から2022年度にかけて外国語担当の専任教員を新たに4名採用し、英語科目の指導体制を強化しています。2019年度より導入しているネイティブ講師との英会話レッスンも引き続き実施するとともに、学生が苦手意識をもちやすいライティングに関する演習課題の追加、指導の強化を図り、これまで以上の教育効果向上に努めていきます。